



桑生態研究室のメンバー

農 林 省 蚕 糸 試 験 場 栽 桑 部 桑 生 態 研 究 室

蒔 祐 彦

はじめに

私たちの研究室は栽桑部に属していますが、蚕糸試験場の所在地の杉並区ではなく、東京都下の日野市——といってもあまりご存じない方が多いでしょうが、基地公害のやかましい立川の隣接市、ライオンの放し飼いで有名な多摩動物公園のある市——にある付属日野桑園内にあり、しかも現在は施設と実験圃場の都合で研究室が2つに分散している状態です。

研究室の生いたち

桑生態研究室は、名称は桑生理生態研究室が分離したもので、もとの栽培才3研究室（旧武豊支場にあった）と栽培才1研究室の一部が合併して、昭和35年にできた、部内では最も新しい研究室の1つです。それだけに施設もまだ充分ではなく、人間も目下まだ訓練中？の状態です。

仕事の概要

本来の研究は桑の圃場生態に関する研究ですが、現在は人員の関係もあり、桑園における物質生産に関する研究の中の水の効率的利用に関するものと、植生に関する研究中の雑草生態とその防除ならびに草生栽培についての研究を行っています。もちろん、このほかにもいろいろな雑用的な仕事も多々あります。研究室は新

しいのですが、施設は老朽化しておりますし、あまりにも守備範囲が広いところへもってきて、人手の不足は最も手痛いところです。それでも、我々の研究成果が何等かの形で養蚕農民の生産性の向上、ひいては生活の向上に役立たねばと一同張り切っているつもりです。

研究の内容

1) 水の利用については、移動上屋のある桑園を用いて、土壤水分を人工的に調節し、その側室からはじまって、主として蒸発散についての研究を行なっています。水がどの位あれば最も生産が上がるか？は、わかったようでいてわからぬことが多いのです。それは、生育時期や栽培条件によって異なるからでしょう。それらを究明すべく努力をはらっています。

2) 桑園の雑草については、素人の寄り集りですが、30～50才の手習いで頑張っています。雑草の個生態から桑との競合関係まで手がけています。除草剤に関する仕事は、その一部です。草生栽培は、省力管理体系の確立と有機物の自給を目的としたものですが、桑との競合などまだ未解決の問題が多く、これらの解明にあたっています。

除草剤等の研究の分担

除草剤等に関する研究は、一貫してこれを行

なうのがよいのでしょうか、現状ではそれができませんので、この研究室では除草剤の除草効果の判定とか桑への影響についてのみ実験をし、蚕に及ぼす影響などは養蚕部の飼育環境研究室がこれにあたり、また除草剤以外の植物調節剤については、今のところは主として桑の発芽の促進ならびに抑制および発根の促進ですが、これらについては栽桑部の生理、繁殖、災害、栽培などの研究室で分担研究をしています。こういうことは、機構上の問題かもしれませんが、人的要素の少ないためです。従来の本務から手を抜くわけにはいかないので、他の研究室の協力による他はないのです。そして、除草剤に関する実務は、大部分がアルバイトの労力をあてにしているのが現状です。

除草剤についてのこれまでの仕事

研究室の新設当時は全く余裕がなかったので、除草剤についての仕事は全然やりませんでした。その後も除草剤については、エキスパートがいるわけでもないのですが、栽培研究室時代にも2,4-Dをはじめとして、SESなどのホルモン型除草剤の他にもシアン酸塩等の桑に対する影響に関する実験なども行なっていたという…これまで経過からかも知れませんが、除草剤の仕事をするようになり、DCPAに関する実験を手がけるようになりました。

日本植物調節剤研究協会が設立されてからは、委託の除草剤に関する実用化判定試験は主として我々の研究室が担当するようになりましたが、前述のような諸条件のために、掘り下げた研究はもちろんのこと、多数の供試薬剤を同時に供試するような実験もできないことは残念です。毎年1～2点の除草剤についての実験程度で、

これまでもリニュロン、モノリニュロン、K P粒剤位のもので、現在も“M & B 9 0 5 7”についての効果判定試験を行なっているにすぎません。それでも、多くの地方蚕業試験場の協力によって、いくつかの除草剤についての実用化判定試験を共通的に行なっており、これはかなりの成果をおさめており、これらを比較検討させていただく機会が与えられていることは、研究室の仕事ではとても及ばない点を知ることができて幸いです。

おわりに

こんなわけで、十分な研究もできず、豊富な知識もないのに、各方面からの問い合わせなどもかなりあり、うれしい悲鳴を上げています。そして、充分ご要望にこたえられないことをいつも申し訳なく思っています。私たちだけでは力たらずですが、関係機関の協力で研究も進み、徐々にではあるが、実用化も広がりつつあることは、農家の生産性向上に役立っていることと考えられ、喜ばしいことです。

多くの人達とお話する機会があることは、研究上にも必要なことと思います。皆様のおでかけ下さることをお待ちしております。

(筆者は桑生態研究室長)